

働きます！ひとりのために 未来のために



あつこ通信

＝ 2020 年秋季号 ＝



木更津市議会議員 渡辺厚子

日常活動トピックス



木更津市議会会派公明党として、「令和3年度予算編成に関する要望書」を渡辺市長（田中副市長も同席）に提出しました。
(10月9日)



防災週間では党女性局3名で木更津駅東口にて街頭を行い(9月4日)、9月定例会終了後は会派4名で議会報告街頭を西口にて行いました。(10月1日)



危険なバス停の状況調査のため、木更津警察署とバス事業者を訪問(10月1日)し、翌日は、見立て海岸の近くに新設されたグループホーム「ラ・メール木更津」を見学しました。



新型コロナウイルス感染症による「緊急事態宣言」解除後に再開された学校の見守り活動では、波岡小学校の通学路で朝の登校見守りを行っています。

地域の皆様からご要望を頂いて改善されました！

畑沢南1丁目

お食事処「網元」の交差点につながる坂道（両車線）に「交差点注意」の路面標示が設置されました。



畑沢南3丁目

消えてほとんど見えなくなっていた坂道のセンターラインが、約700mにわたって引きなおされました。

幸町2丁目

アパート駐車場角で長い間破損したままだった側溝柵の蓋と周辺道路が改修されました。



◆お気軽にご意見・ご要望をお寄せ下さい◆

*電話：0438-36-2669

*メール：nabesarazu@ybb.ne.jp

*HP：[渡辺厚子オフィシャルページ検索](#)

*Twitter：[@atsuko_komesuke](#)

※日々の活動は[渡辺厚子ツイログ](#)でも検索できます

* * * * * 議 会 報 告 * * * * *

【 9月定例会 質問項目 】 (9月2日に登壇しました)

1. 市民に寄り添う支援の向上について

- (1) ご遺族を支える「おくやみコーナー」の設置について
 - ① 死亡に伴う諸手続き
 - ② 「おくやみコーナー」の先進事例
 - ③ 本市における「おくやみコーナー」設置の必要性
- (2) 自殺対策の推進について
 - ① 「木更津市自殺対策計画」策定後の取り組み
 - ② 「断らない相談支援」の役割

家族が亡くなった時の手続きについて、ご遺族の負担軽減のために「おくやみコーナー」を早急に設置するよう訴えました。⇒ 執行部からは「本年度中に試験的運用として、死亡後の諸手続きに関する補助・支援を予約制により開始し、ご遺族の負担軽減と市民サービスの向上につなげていきたい」との答弁がありました。

2. ごみの減量化・資源化の今後について

- (1) 指定ごみ袋について
 - ① 10リットルサイズの袋
 - ② 指定ごみ袋として使える有料レジ袋
- (2) 新たな分別区分「プラスチック資源」について
 - ① 今後の方向性
 - ② 本市の考え方
- (3) 使用済み紙おむつのリサイクルについて
 - ① 環境省のガイドライン
 - ② 県内の先進事例
 - ③ 本市の考え方



10Lサイズの袋が有る地域から転入された方や単身世帯の方々から「夏場の生ごみは早めに出したいので小さいサイズの可燃ごみ袋がほしい」とのお声が寄せられてきました。少子高齢化や衛生面からも、本市での10Lサイズの袋の導入を求めました。⇒ 「市としては導入に向けて他自治体の状況等を踏まえ調査・研究をしていく」との答弁がありました。

【 新型コロナウイルス感染症対策（市独自支援策）の拡充 】

令和2年9月11日から受付開始している「木更津市中小企業感染症対策支援金」が増額・期間延長・業種拡大されることになりました。（10月の臨時議会を経て、11月1日から変更）

◆給付額の増額

変更前：5万円 → 変更後：10万円 ※令和2年10月31日以前に既に5万円分の申請を行っている方は、市役所から個別に案内を郵送されますので、再度お手続きをお願いいたします。

◆申請期間の延長

変更前：令和2年11月30日(月曜)まで → 変更後：令和3年1月31日(日曜)まで

★ステッカー ⇒



◆対象業種の拡大

追加する業種：保険業・物品賃貸業(自動車、音楽映像記録物など)・その他の児童福祉事業(学童など)

※支援金の詳しい内容については市のホームページをご覧ください。

会派公明党は6月29日に渡辺市長へ提出した「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた今後の施策に関する緊急要望書」の中で、国・県の支援策では足りない事業者に対する市独自支援策の拡充として、「接客や集客を主とする事業者（飲食・理美容・マッサージ・イベント・商店等）に対して衛生管理に要する感染症対策費を補助すること」を盛り込んでいました。



議 会 提 案 が カ タ 千 に な り ま し た ！

本年3月定例会において「災害対応力の強化について」の質問の中で提案した「使い捨て哺乳瓶等の活用」が実現し、8月から潮見の災害用備蓄倉庫に170個備蓄されています。

